

株式会社 MORESCO

# 第68期決算説明

(2025年3月1日～2026年2月28日)

東証スタンダード 5018(石油・石炭製品)  
2026/04/20

# 目次

- 経営環境および事業概要
- 業績報告
- トピックス
- 第10次中期経営計画の進捗について

# 目次

● 経営環境および事業概要

● 業績報告

● トピックス

● 第10次中期経営計画の進捗について

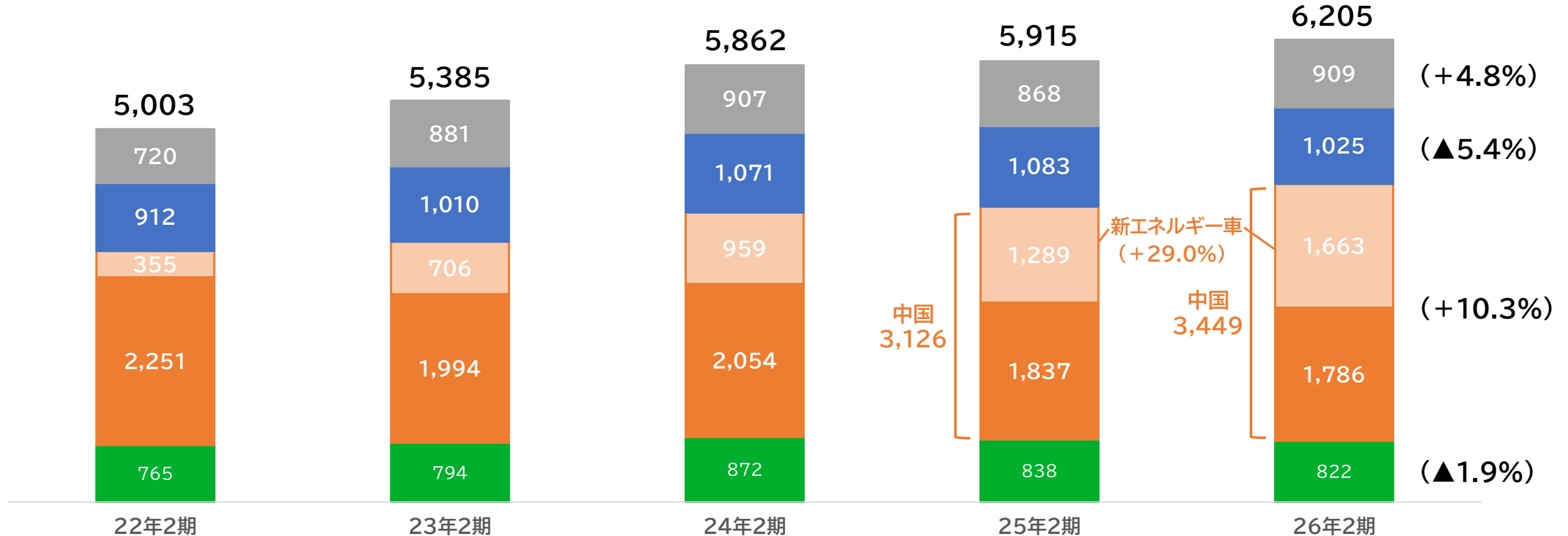
# 当期の経営環境-自動車生産台数

➤ 北米、日本は前期比減少。中国および東南・南アジア(インド)は増加

## 当社拠点所在地域における自動車生産台数の推移

■ 日本 ■ 中国 ■ 米国 ■ 東南/南アジア

単位:万台  
( ):前期比



出所: マークラインズ社の資料をもとに当社作成

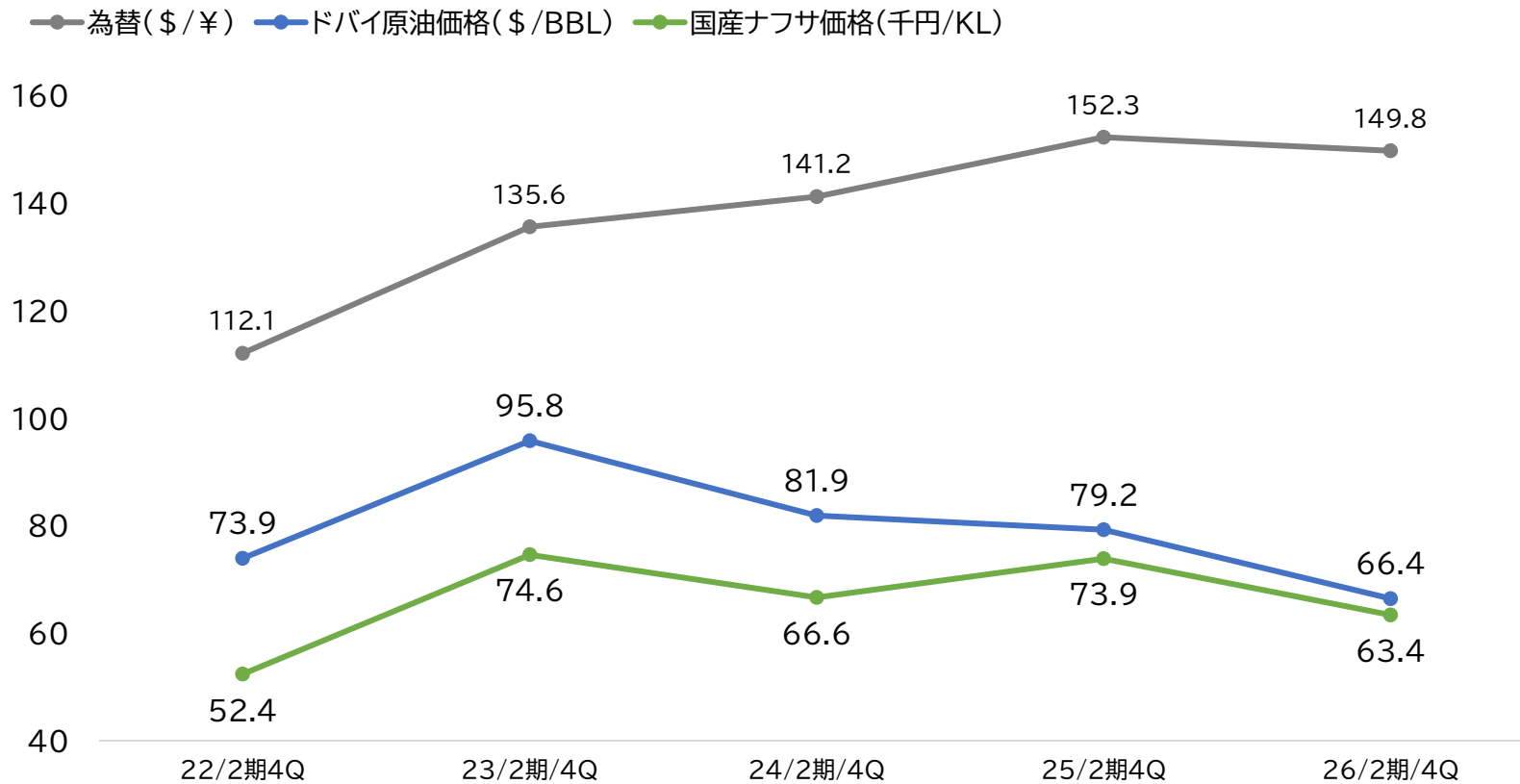
注1: 当社の会計年度を基準に集計(日本:3月~翌年2月 海外:1月~12月)

注2: 東南/南アジアは、当社拠点のあるタイ、インドネシアとインドを集計

# 当期の経営環境-為替・原油・ナフサ価格の推移

- 26/2期の平均為替レート(ドル/円)は前年同期と比べやや円高で推移
- 原油、ナフサ価格は低位で推移

## 為替・原油・ナフサ価格の推移(期中平均値ベース)



	26年2月期 実績	26年2月期 計画	計画比	前期比
為替レート (\$/¥)	149.8	145.0	+ 4.8	▲2.5
原油価格 (\$/BBL)	66.4	79.5	▲13.1	▲12.8
国産ナフサ価格 (千円/KL)	63.4	-	-	-

注: 数値は期中の平均値  
出所: 公表データをもとに当社作成

# 連結損益計算書

➤ 高付加価値製品の販売増加、販売費および一般管理費の抑制により、増収増益

(単位:百万円)	25年2月期	26年2月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	34,374	34,871	+497	+1.4%
売上総利益	9,960	10,957	+997	+10.0%
販管費	8,569	8,590	+21	+0.3%
研究開発費	(1,599)	(1,544)	▲55	▲3.4%
営業利益	1,391	2,367	+976	+70.2%
営業外損益	430	337	▲93	▲21.7%
経常利益	1,821	2,704	+883	+48.5%
税引前利益	1,585	2,612	+1,027	+64.8%
当期純利益※	1,013	1,525	+512	+50.6%

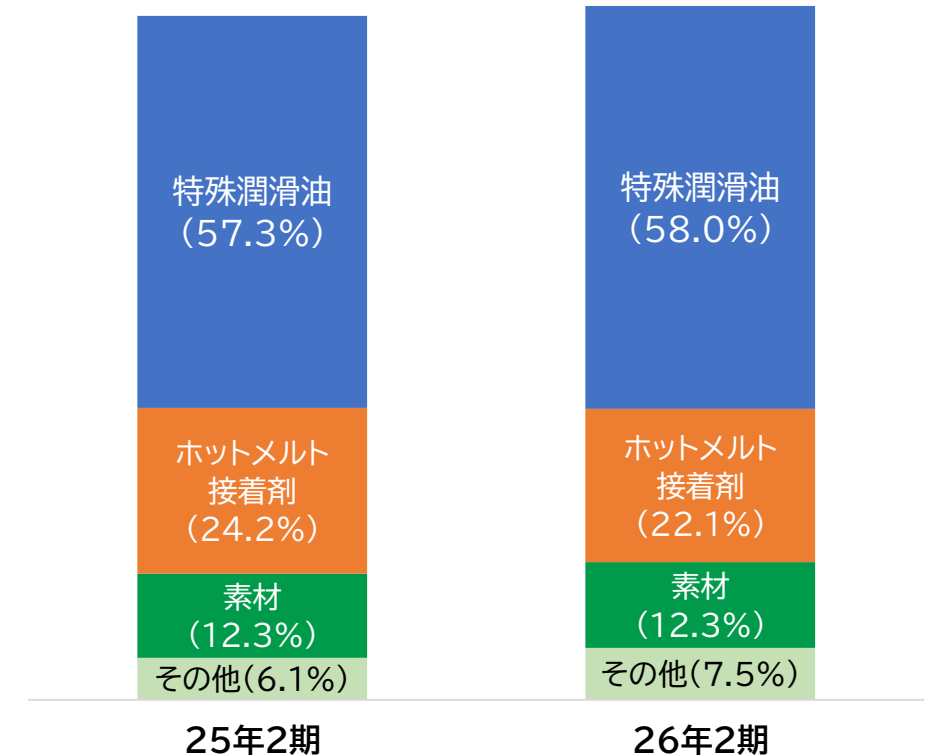
※親会社株主に帰属する当期純利益

# 部門別売上高

- 切削油剤やデータセンター向けハードディスク表面潤滑剤の売上高が増加(特殊潤滑油部門)
- 衛生材用途の販売が減少(ホットメルト接着剤部門)
- 排水処理装置の販売が増加(その他)

(単位:百万円)	25年2月期	26年2月期	前期比	
			増減額	増減率
特殊潤滑油部門	19,697	20,238	+541	+2.7%
ホットメルト接着剤部門	8,332	7,720	▲612	▲7.3%
素材部門	4,234	4,298	+64	+1.5%
その他	2,110	2,615	+505	+23.9%
<b>売上高合計</b>	<b>34,374</b>	<b>34,871</b>	<b>+497</b>	<b>+1.4%</b>

## 部門売上高シェア



# 特殊潤滑油部門

【売上高】 前期比**2.7%増**(20,238百万円)

【売上数量】 前期比**0.3%増**

## 作動油

- 国内需要が低下し減収

## DC(ダイカスト)油剤

- 中国および北米の販売は減少

## 切削油剤

- 新規拡販が進み増収

## 高温用潤滑油

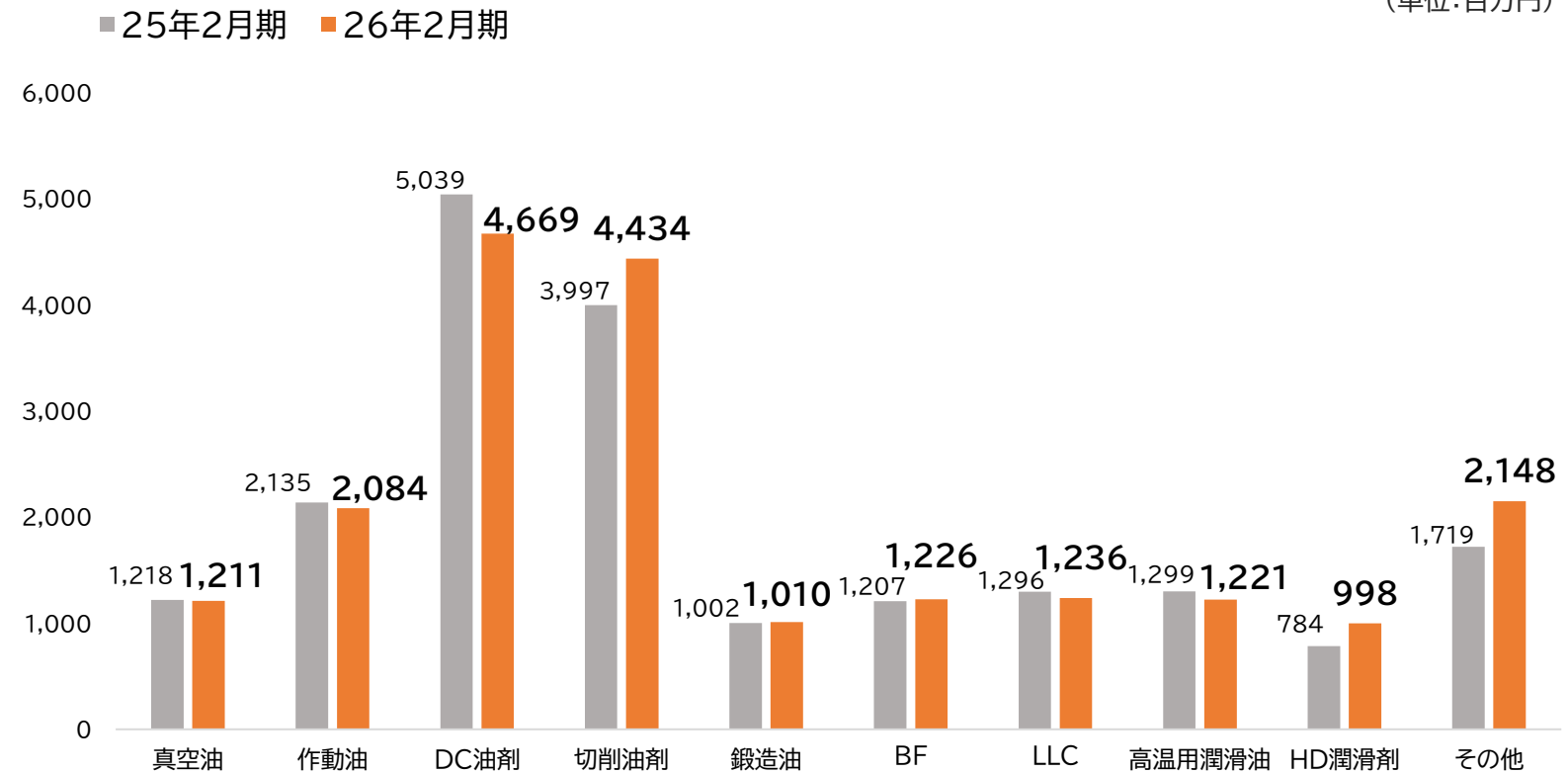
- 国内需要が低下し減収

## HD(ハードディスク)潤滑剤

- 需要増により増収

## 製品別売上高

(単位:百万円)



# ホットメルト接着剤部門

【売上高】 前期比**7.4%減**(7,720百万円)

【売上数量】 前期比**4.8%減**

## 衛生材用途

- 売上高、数量ともに減少

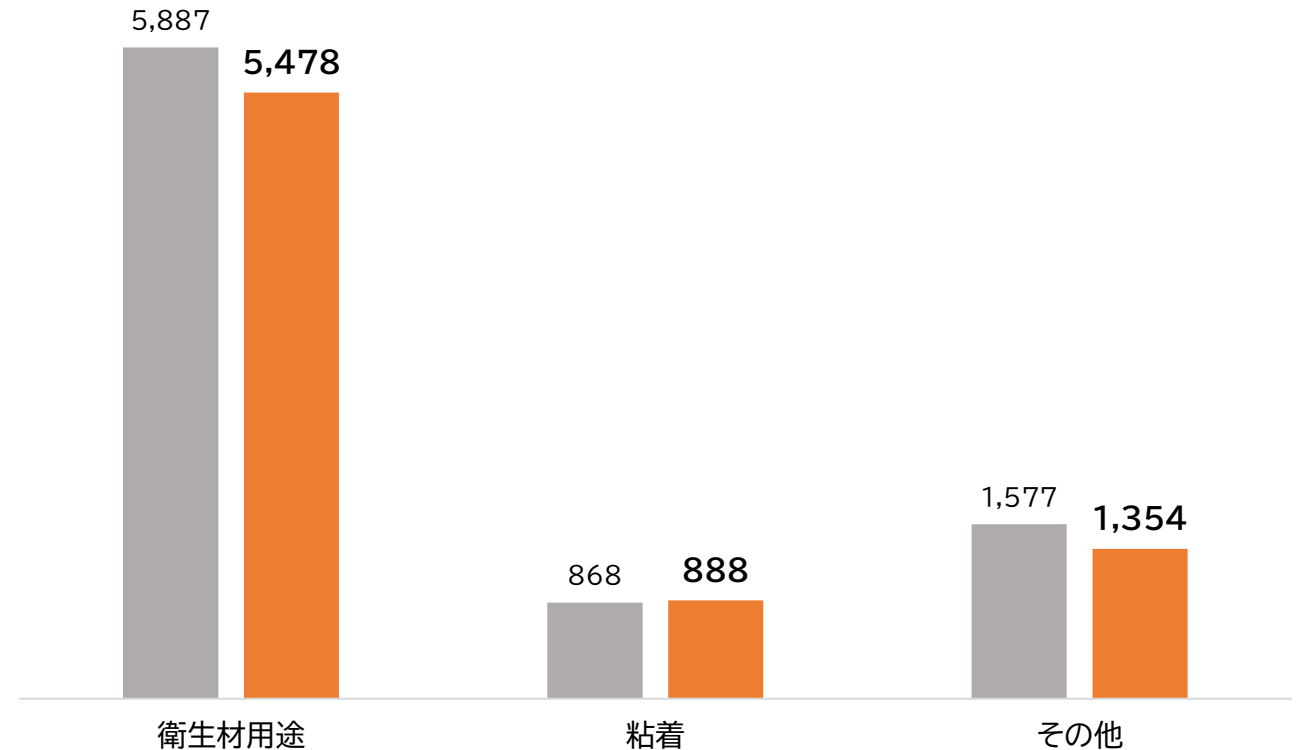
## 粘着

- 海外需要が低調も、国内需要が回復し増収

## 製品別売上高

(単位:百万円)

■ 25年2月期 ■ 26年2月期



【売上高】 前期比**1.5%増**(4,298百万円)

【売上数量】 前期比**0.3%減**

### 流動パラフィン

- 国内販売が安定的に推移し、増収

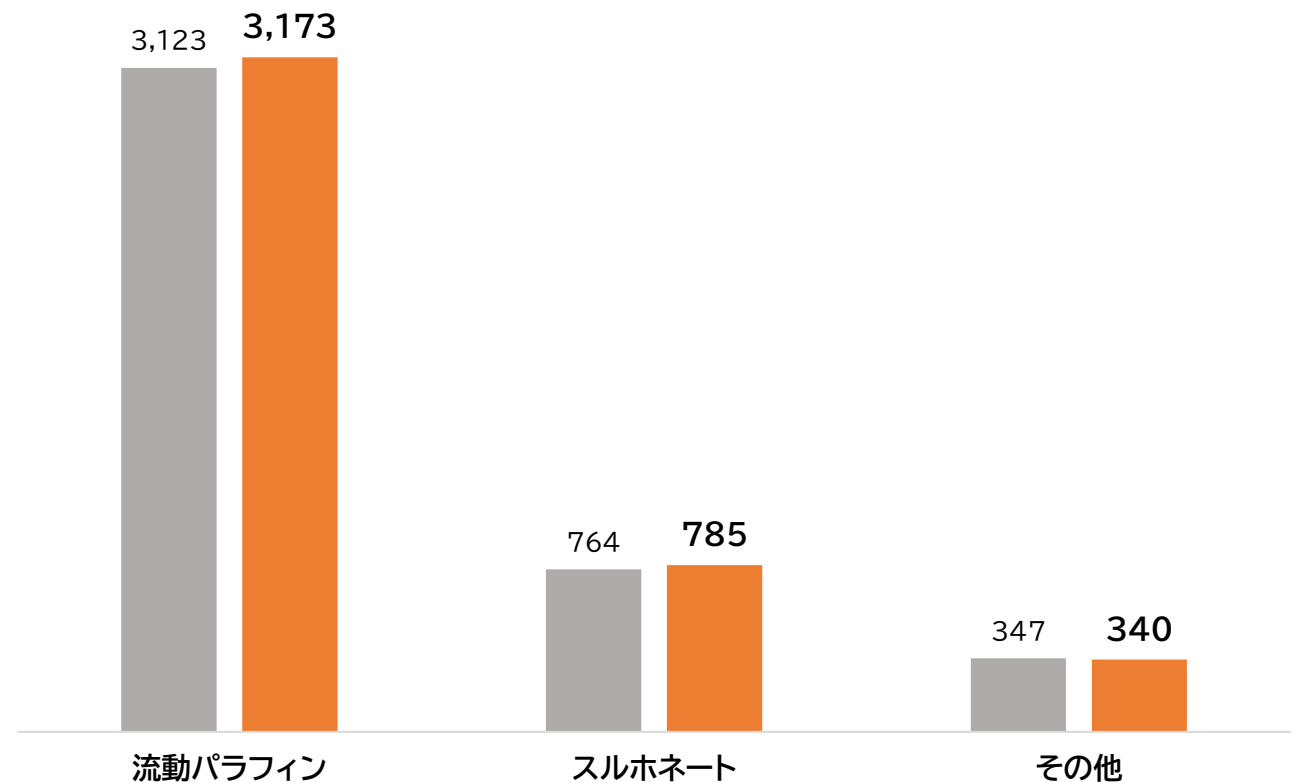
### スルホネート

- 中国向けが低調な中、北米向けの売上が貢献し増収

### 製品別売上高

(単位:百万円)

■ 25年2月期 ■ 26年2月期



# 目次

● 経営環境および事業概要

● **業績報告**

● トピックス

● 第10次中期経営計画の進捗について

# 連結損益計算書

## 売上高

- 特殊潤滑油部門の売上増

## 売上総利益

- 販売価格の是正および高付加価値製品の拡販

## 営業利益

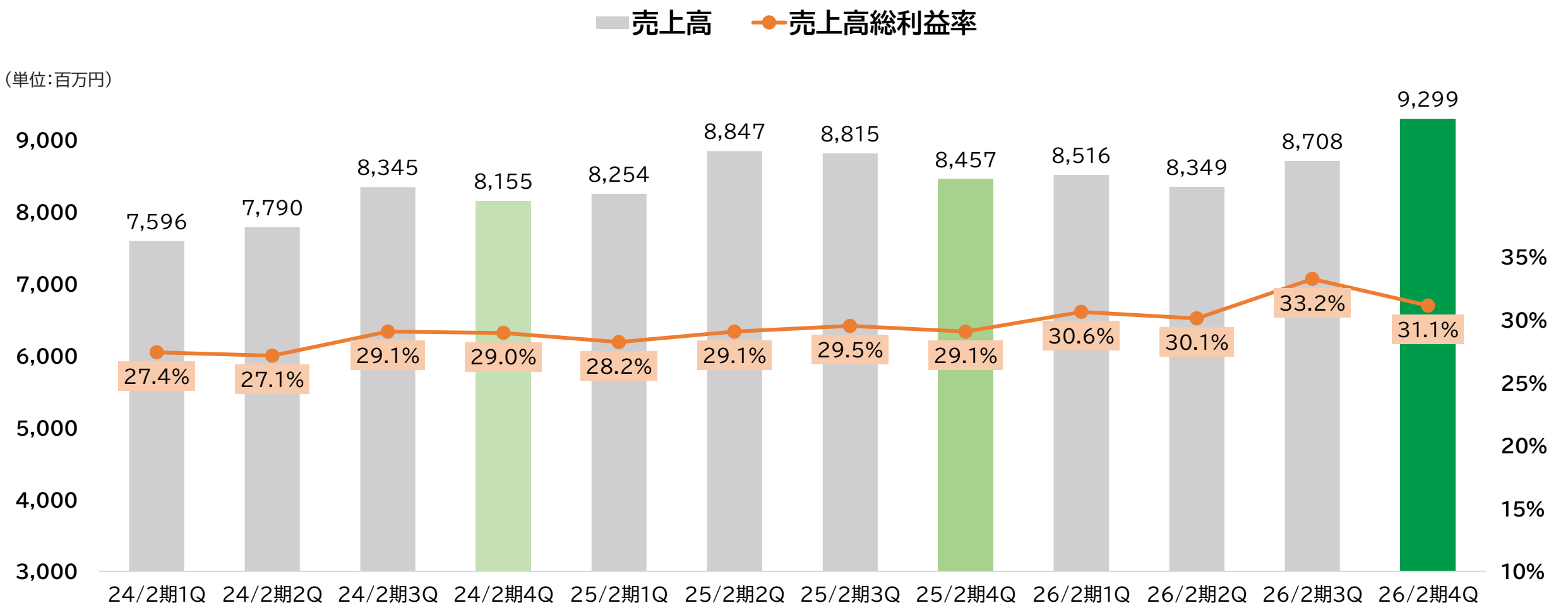
- 販管費の抑制

(単位:百万円)	25年2月期	26年2月期	前期比	
			増減額	増減率
売上高	34,374	34,871	+497	+1.4%
売上総利益	9,960	10,957	+997	+10.0%
販管費	8,569	8,590	+21	+0.3%
研究開発費	(1,599)	(1,544)	▲55	▲3.4%
営業利益	1,391	2,367	+976	+70.2%
営業外損益	430	337	▲93	▲21.7%
経常利益	1,821	2,704	+883	+48.5%
税引前利益	1,585	2,612	+1,027	+64.8%
当期純利益※	1,013	1,525	+512	+50.6%

※親会社株主に帰属する当期純利益

# 連結売上高および連結売上高総利益率の推移(四半期)

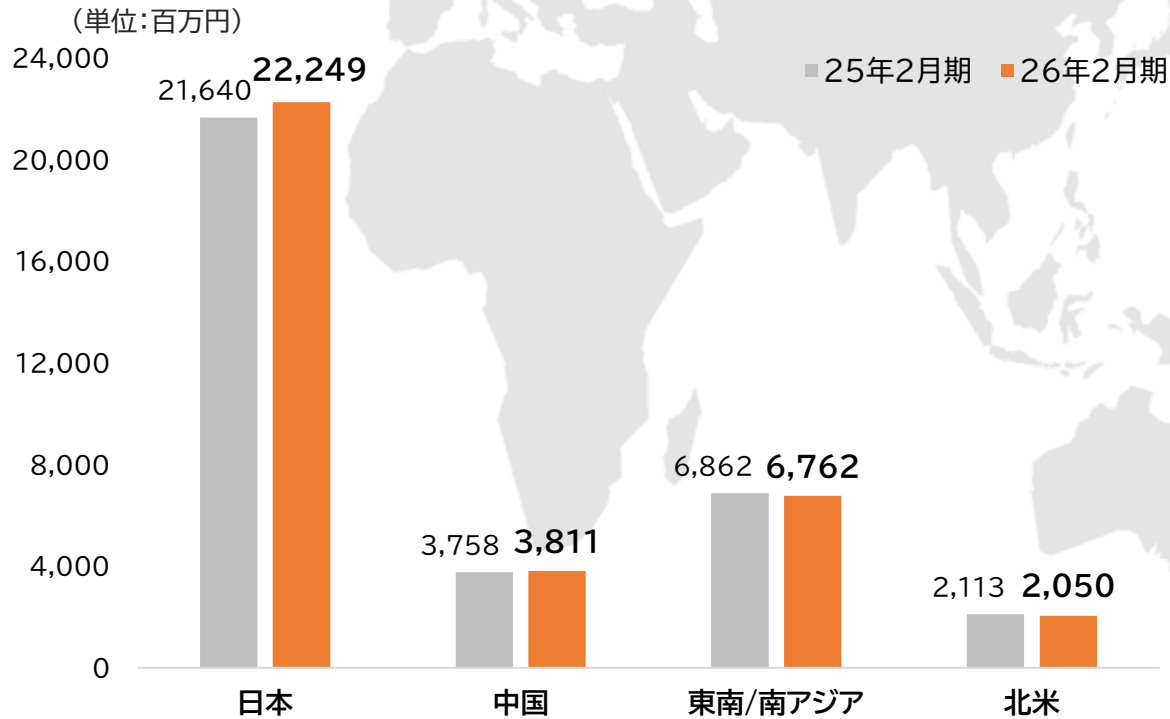
- 売上高は増加傾向を維持
- 売上高総利益率は31%台を確保



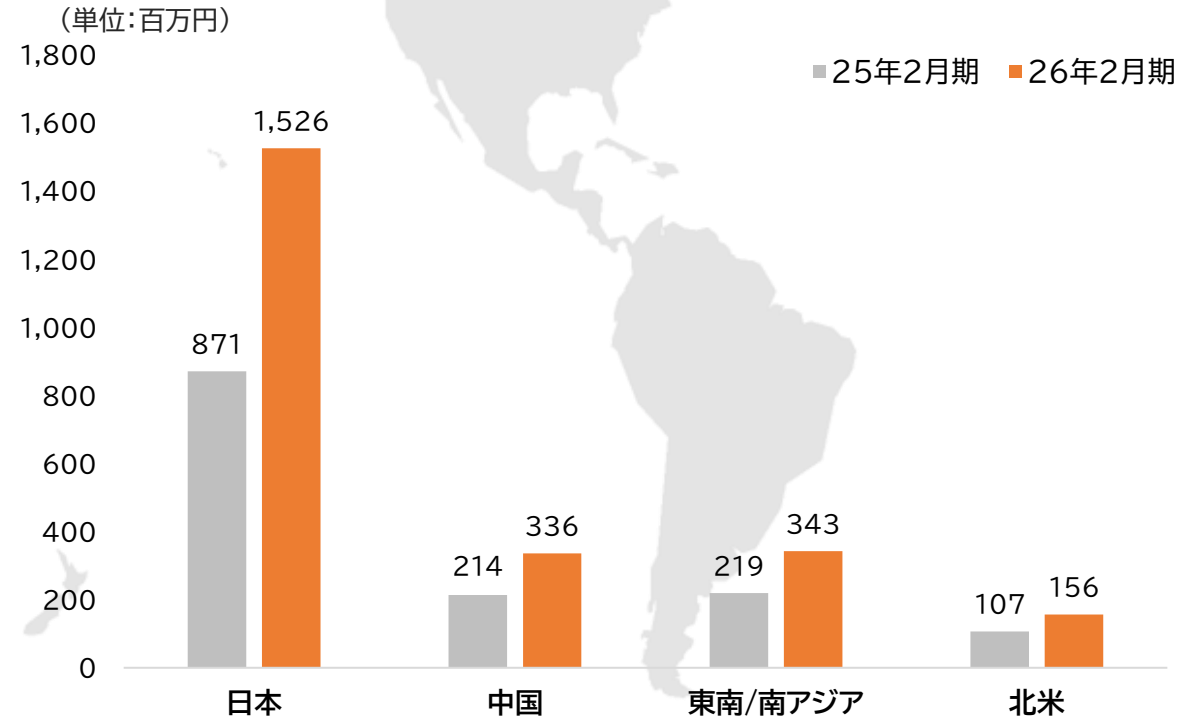
# 連結セグメント損益

- 【日本】 切削油剤の拡販やデータセンター向けハードディスク表面潤滑剤の販売増により増収増益
- 【中国】 DC油剤は販売減も、真空油や切削油剤の販売増により増収増益
- 【東南/南アジア】 ホットメルト接着剤の販売減により減収も、潤滑油全般が好調に推移し増益
- 【北米】 売上高は減少したものの、統合効果により増益

## 売上高



## セグメント利益



# 連結貸借対照表

## 棚卸資産

- ・ 製品 ▲270

## 有形固定資産

- ・ 機械装置及び運搬具 ▲275

## 投資その他

- ・ 退職給付資産 +606

## 有利子負債

- ・ 長期借入金 ▲832

## 包括利益累計額

- ・ 為替換算調整勘定 +199
- ・ 退職給付に係る調整累計額 +665

(単位:百万円)		増減額		増減額	
現預金	6,914	+1,406	仕入債務	5,081	+81
売上債権	8,661	+531	有利子負債	4,560	▲557
棚卸資産	6,892	▲235	その他流動負債	2,681	+496
その他	662	+167	その他固定負債	1,477	+492
流動資産合計	23,129	+1,870	負債合計	13,799	+511
有形固定資産	9,932	▲482	資本金・資本剰余金	4,096	+7
無形固定資産	1,283	▲89	利益剰余金	16,385	+1,112
投資その他	6,338	+1,087	自己株式	△641	+8
			包括利益累計額	3,637	+665
			非支配株主持分	3,406	+82
固定資産合計	17,553	+516	純資産合計	26,883	+1,874
資産合計	40,683	2,386	負債・資本合計	40,683	+2,386

# 連結キャッシュフロー

## ▶ 主な増減要因

### 営業キャッシュフロー

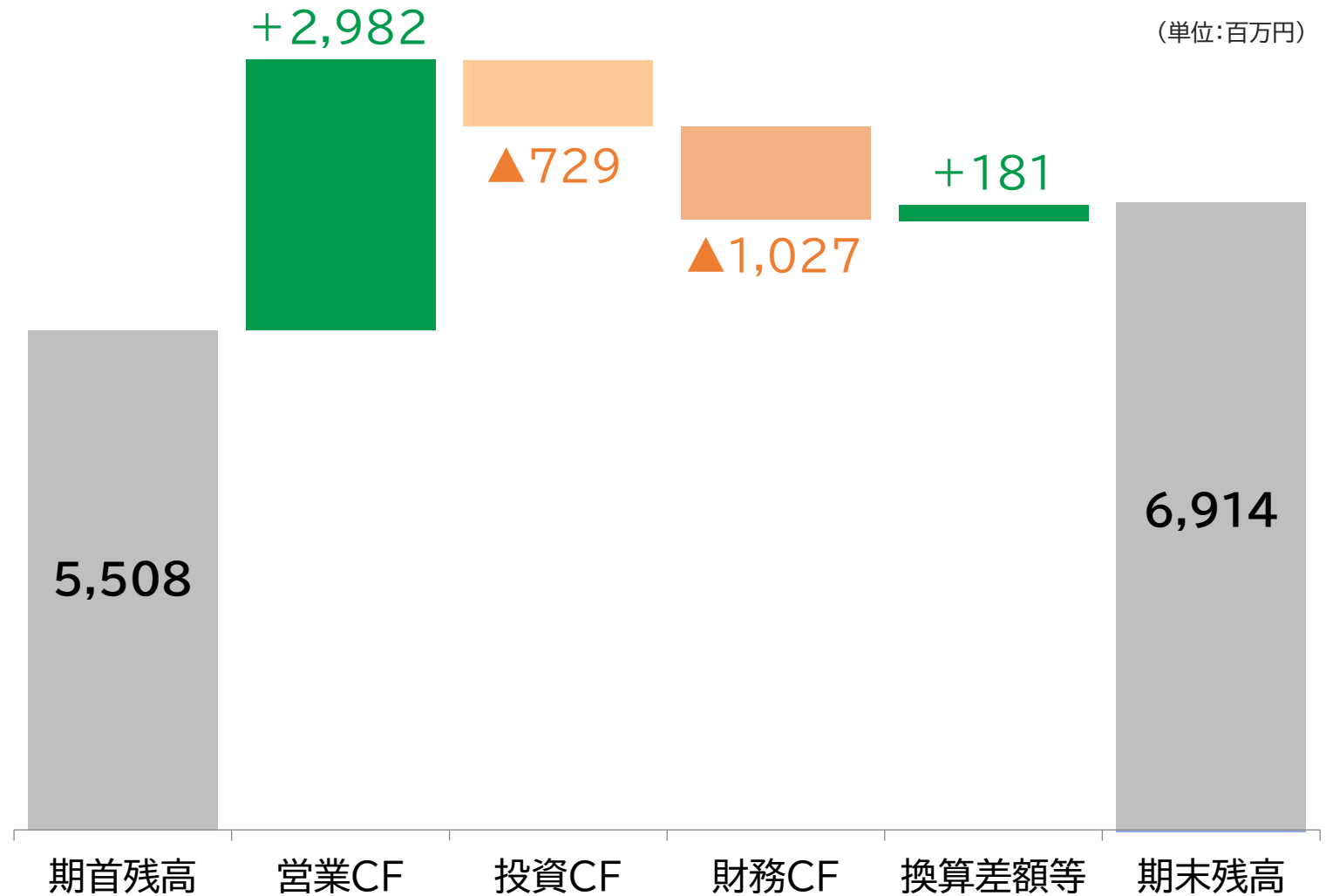
- 税金等調整前当期純利益 +2,612
- 減価償却費 +1,223
- 退職給付に係る資産又は負債の増減額 ▲632

### 投資キャッシュフロー

- 有形固定資産の取得 ▲687

### 財務キャッシュフロー

- 長期借入金返済 ▲1,159
- 配当金支払 ▲413



# 27年2月期の業績予想

## 通期予想の前提

- 原油価格(ドバイ):130ドル/bbl
- 為替レート:160円/ドル

## 1株当たり年間配当金(予想)

- 55円(中間:25円、期末30円)

	26年2月期 実績	27年2月期 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高 (単位:百万円)	34,871	37,000	+2,129	+6.1%
営業利益	2,367	2,400	+33	+1.4%
経常利益	2,704	2,700	▲4	▲0.1%
当期純利益※	1,525	1,550	+25	+1.6%

※親会社株主に帰属する当期純利益

# 目次

● 経営環境および事業概要

● 業績報告

● **トピックス**

● 第10次中期経営計画の進捗について

# トピックス(グローバル体制の強化に向けた取り組み)

- ▶ 北米および中国における経営体制の見直し(2025年12月12日公表)

## 北米におけるグループ会社2社の合併について

北米の当社連結子会社 MORESCO USA Inc.(米国ミシガン州)と、CROSS TECHNOLOGIES N.A. INC.(米国ミシガン州)の合併を行いました。

## 中国のホットメルト工場(天津)の解散について

現在、当社グループのホットメルト接着剤事業は、日本、中国、インドネシア、インドで展開しております。

グローバル生産体制の見直しに伴い、中国の工場を解散し清算することといたします。

# 第2研究センターの建設

- 新規事業の創出に向けて、現在、新たな研究センターを建設しています。2027年3月頃の運用開始を目指しています

## 第2研究センターの外観イメージ



## 研究センターの所在地



# 目次

● 経営環境および事業概要

● 業績報告

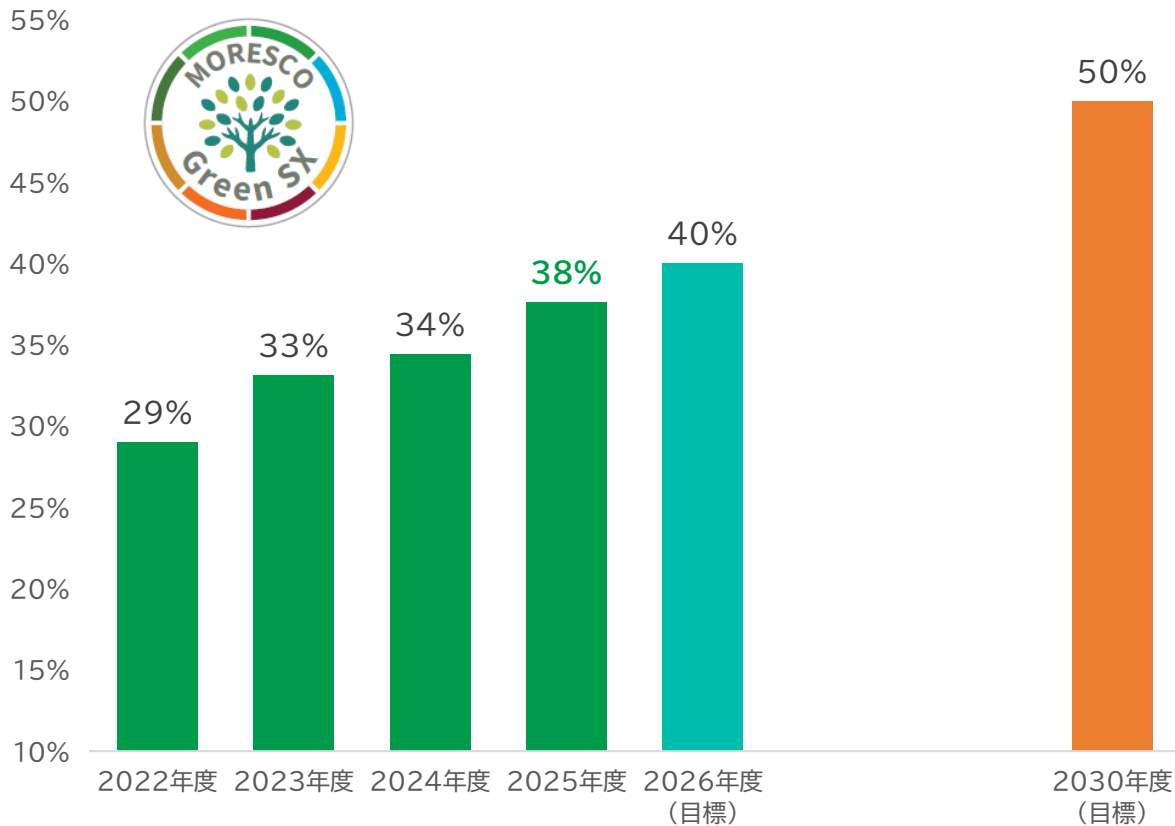
● トピックス

● **第10次中期経営計画の進捗について**

# MORESCO Green SX(MGS)製品売上比率の推移

➤ 2026年度目標(40%)の達成に向けて、MGS製品の開発を加速します

## MGS製品売上比率目標



## MGS製品

### 水溶性切削油剤 モレスコツールメイトGR-5

環境保全

作業環境改善

独自の特殊添加剤によりガラス粉の固化、浮遊を抑制します。  
遠心分離器など周辺装置の不具合低減に加え、入替作業時間を1/4に削減します。



### 反応型ホットメルト モレスコメルトRO-400

省エネルギー

作業環境改善

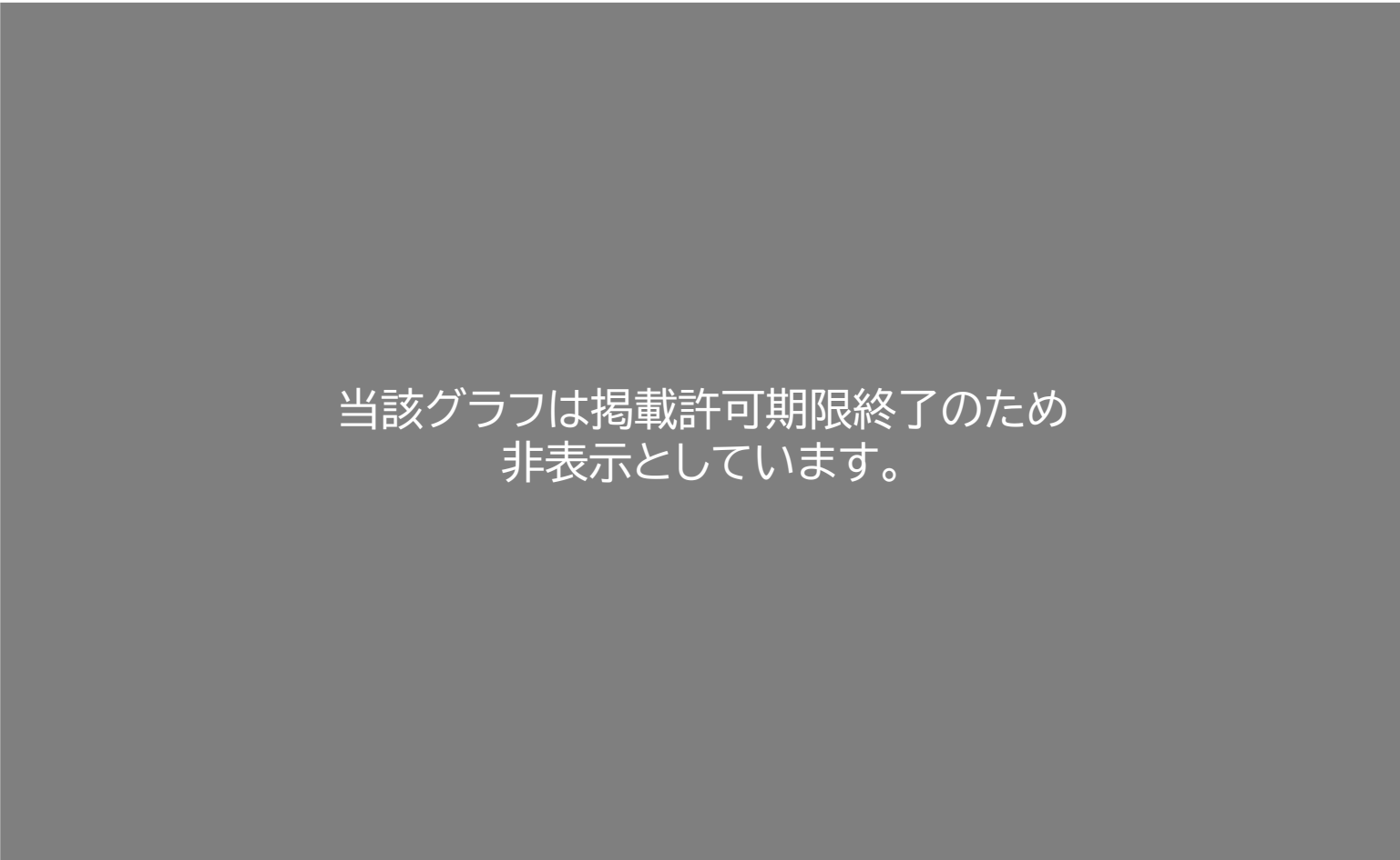
空気中や被着体に含まれる水分(湿気)によって硬化する反応型ホットメルトです。塗工後の乾燥工程不要による生産性向上とエネルギー削減、脱溶剤化による環境改善に貢献します。



# 高付加価値製品の販売強化(ハードディスク表面潤滑剤)

➤ ハードディスク表面潤滑剤のさらなる売上拡大を図ります

## HDD市場(ニアラインストレージ)の推移



当該グラフは掲載許可期限終了のため  
非表示としています。

## ハードディスク表面潤滑剤について

- 当社のハードディスク表面潤滑剤は、ディスクに記録された情報をナノレベル※の薄膜で保護し、ハードディスクの信頼性向上に貢献しています。  
※ナノ:十億分の一



# 高付加価値製品の販売強化(PFASフリー潤滑剤)

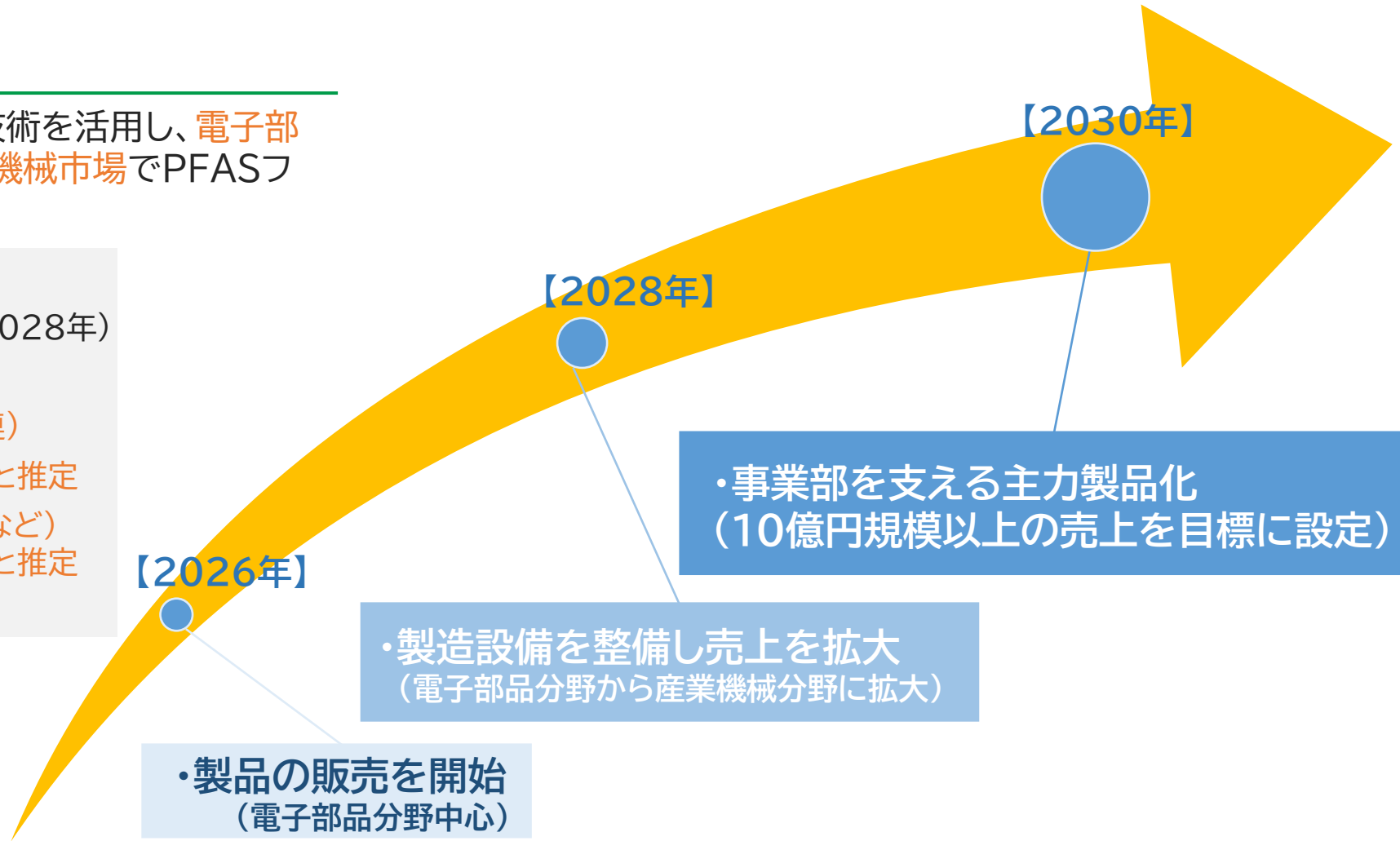
電子部品(半導体製造装置)向けPFASフリー潤滑剤を開発し、2026年度中に製品の販売を開始予定

## 当社の取り組み

- ✓ 高温用潤滑油などの分子合成・配合技術を活用し、**電子部品(半導体製造装置)市場**および**産業機械市場**でPFASフリー製品の展開を図ります。

### 【市場規模(全体)】

- 700億円(2022年実績) → 1,100億円(2028年)
- 主な用途別(2022年実績)
  - **電子部品: 24%**(半導体製造装置関連)
    - ➔ 約170億円の市場規模と推定
  - **産業機械: 14%**(コルゲーターマシンなど)
    - ➔ 約100億円の市場規模と推定
  - **自動車: 15%**



【2026年】

・製品の販売を開始  
(電子部品分野中心)

【2028年】

・製造設備を整備し売上を拡大  
(電子部品分野から産業機械分野に拡大)

【2030年】

・事業部を支える主力製品化  
(10億円規模以上の売上を目標に設定)

# 次世代事業の創出の取り組み(耐放射線性潤滑剤)

- フュージョン(核融合)プラントの開発において、当社は固有技術の耐放射線性潤滑剤で貢献します

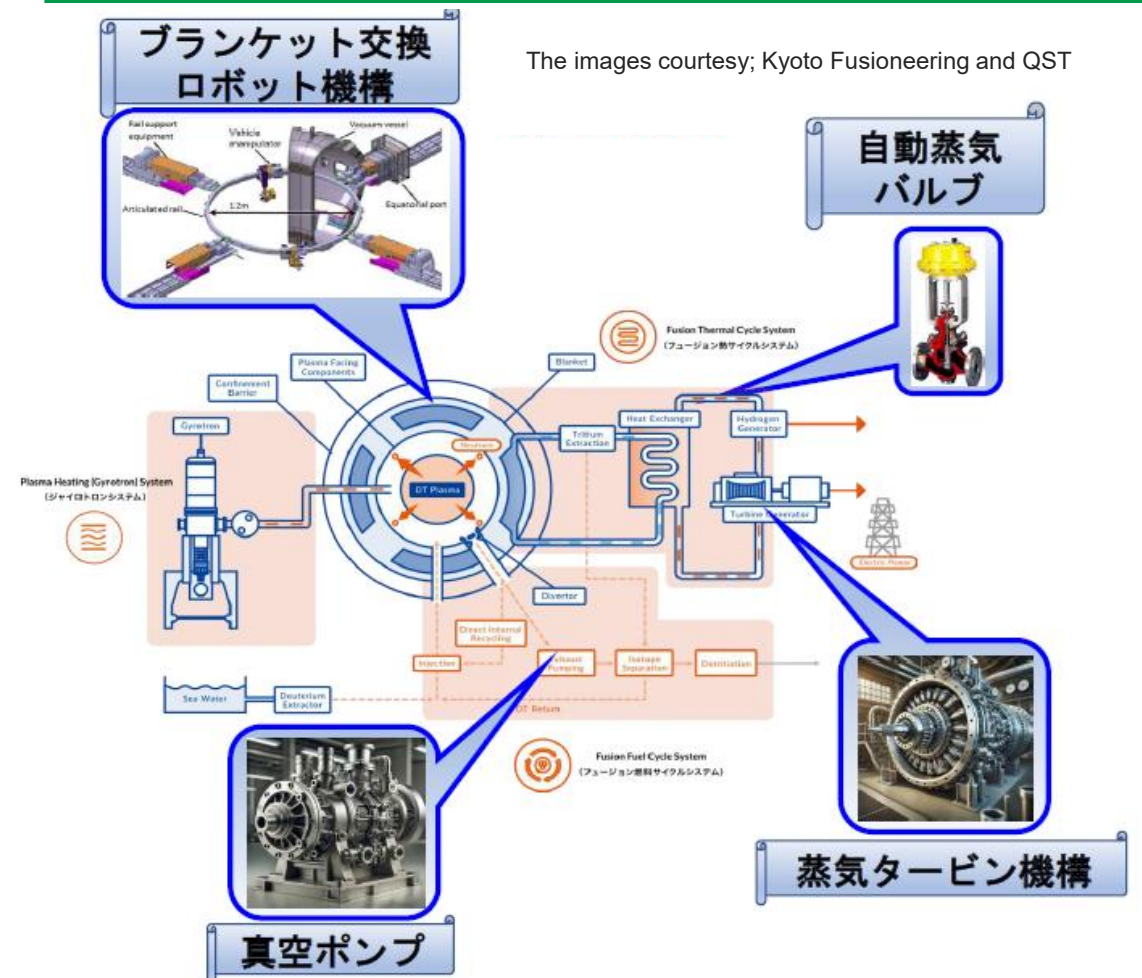
## 当社の耐放射線性潤滑剤(モレスコハイラッド)

- 当社のモレスコハイラッドは、原子力発電、加速器、福島原発の廃炉などの高放射線下でも世界最高レベルの耐放射線性を発揮します。

## 京都フュージョニアリング社との包括的業務提携

- 2025年5月、当社は、京都フュージョニアリング社と将来のフュージョン(核融合)プラントに用いられる耐放射線性潤滑剤の共同開発および販売に関する包括的業務提携を開始しました。

## 利用が想定されるフュージョンプラントの設備



# 次世代事業創出の取り組み(創薬分野 オートファジー活性化薬)

- 大阪大学、愛媛大学、APGO、奈良県立医学大学、東京大学などと共同して、オートファジー活性化薬の開発を進めています



## ■ オートファジーとは

- 細胞内を正常な状態に保つために、細胞内の物質を分解する、いわばリサイクル業者のような働きの中で、生命維持に欠かせない細胞がもつシステムのことです。歳をとると多くの細胞でオートファジーの機能が低下すると言われています。
- オートファジーを活性化できれば健康長寿につながると期待されており、オートファジーの研究に注目が集まっています。

## 地球にやさしいオンリーワンを世界に届けるMORESCOグループ



MORESCOグループ統合報告書2025

- この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点における当社の判断に基づくものであり、今後、予告なしに変更することがあります。
- 本資料記載の業績見通しや目標数値のみに全面的に依存して、投資判断を下すことによるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。
- なお、当資料を無断で複写複製、配布することを禁じます。